

借金格

マスター 星 一
オブアーツ

左の一篇は十一月十二日東京市主催の能率増進事務用品展覧會講演會に於て東京市長後藤男爵に次で、試みた本社々長の演説の一節を速記に基いて略述したものである。時節柄讀者の御參考にもならば幸甚(一記者)

(前略)私は「借金格」といふ題を掲げて置きましたが、これは私が作つた言葉でありまして借金をする人格、借金格といふものが私はあると思ふのである、アメリカの本を讀むと「最近の商賣の中で、商品代の信用ほど大なる金額に上つてゐるものはない」と書いてある、是れは誰も餘り氣がつかないでゐるか知れませぬが、そう云はれてみれば實に商品代の信用ほど大きな金額に上つてゐるものはない、最近經濟界の一大現象であります。さうして文明國ほど信用の金高が大きくなつてゐる、支那あたりへ行くと殆んど無いかも知れぬ臺灣の生蕃へ行つたら商品に對する信用なんてものは全く零であります。此の商品に對する信用を大きくすることの出来る出来ないとは實業家にとつて大なる關係があります。私は或る意味に於て世の中は凡て借

金で出来てゐると言ひ得ると思ふ。社會の恩を受けてゐるといふのは社會から借金を負ふてゐることである、此の借金を返さないで死んで行く人もある種々な意味に於て世の中は借金で出来てゐると言へると私は思ふ。結局借金は偉大なる力を有つてゐる、實業家は借金の力を看過する譯に行かない。

今日借金の一番大きい國は何處かといふとそれは英國である、次はアメリカ、それから佛蘭西である。是等の國は皆大きい借金を持ち、個人の會社に於ても借金の一番大きい會社が盛である。支那や暹羅は日本ほど借金が出來ない。朝鮮が日本に併合されない前借金することは出来なかつたではありませぬか。而して借金で亡びたる國と云ふものは世界中にない、借金で亡びたる個人の家といふものもない、借金は恐いものではない、借金は必要なものである、借金をつくらねば世の中は立つて行かないと私は思ふ。私は元々四百圓の借金から仕事を始めて、借金が有難いからその様に吹聴するといふ譯ではない。學問の上から研究して其の通りである。

最近アメリカに「C.C」といふ言葉がある、それは借金格の意味にも見ることが出来ると思ふ、即ちCharacter(品性) Capacity(才能) Capital(資本)である、此の三つが完備することが必要

であります。これを分拆すると(一)人格(二)營業振りの二つになり、その人格の方には(一)勇氣、(二)終始一貫、(三)性質、(四)才能とし、そして營業振りの方は(一)實價の定め方、(二)出費を、(三)計算方、(四)消却の爲し方、(五)統制、(六)市場の知識、(七)節約、(八)商品の知識、(九)店の陳列、(十)着手前に利益の計算、(十一)お客に對する奉仕でありまして此の人格と營業振りの二つが借金格を作つてゐると申したい

そこで人格は第一に勇氣——私は借金をするの勇氣が無くはないかぬと思ふ。金借りて青い面して行つたでは借りられない、俺の事業は永遠で且つ世の中の爲めになる、俺に金貸さなければならぬと確信勇氣を以て相談するが好い。泣き面して涙を流しても駄目である。さうしたら同情を得るかも知らぬが、同情は弱者に對するものである、そんなものは女の方へやつて了ふが宜い。

次に終始一貫——自分の事業に終始一貫するでなければならぬ、所謂一人一業を守つて居る者でなければならぬ。どんな事業でも十年経たねば目鼻はつきませぬ、私は星製藥會社を經營するにも最初の十年を準備の時代と思つて仕事をして來ました、本社は此の十一月四日で滿十年であります、今度は第

二の十年計畫に這入る積りで仕事をし居ります、本社はこれから發展の準備をするのであります。諸君、七萬圓の金が欲しいと云ふならば先づ廿年計畫を立てる、さうして十五年間は自分の存在を示すことに努め、決して儲けることを考へてはならぬ。一年に五千圓づゝ儲けなければ十萬圓になれぬと思ふのは間違です(拍手)十五年間自分の仕事の存在を示し後の五年間に十萬圓(拍手)：此の計畫でなければならぬ、さういふ計算の出來る人は終始一貫其の仕事をやつて行ける人である。その計算の出來ない人は借金格が備はらないのであります。

第三には性質——で、正直でなければならぬといふやうなことで、又其の人の技能——は修養と云ふことが出来る、修養によつて才能を作るとも出来るから——人格の方では是れが必要だと思ふのであります。それから今度は營業振り(十ヶ目に就て詳細なる説明があつたけれども、紙面の都合にて茲に略す)

結局借金といふものは經濟的目的に外ならない、金を儲ける爲に借金をするのであるから、借金をする時には正當なる用途と利息が出来るだけ安いと云ふ事が必要であります(下略)